# 色々雑談部屋

紀葉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

## 注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
色々雑談部屋

【Ｎコード】
Ｎ８８６２Ｙ

【作者名】
紀葉

【あらすじ】
紀葉とドンキーが色々と雑談します。
質問に答えたり、ゲストを招くこともあるかも？
リクエストも受付中！

## 初めに（前書き）

とりあえず説明をば。

## 初めに

紀葉「どうもこんにちは。『普通で普通じゃない日常』の主人公であり、同作品で作者の一番のお気に入りのキャラの八木紀葉です。」

ドンキー「ドンキーコングシリーズの主人公で、作者の嫁を超越した何かのドンキーコングです。」

紀葉「えーっとこれはですね、私達がいろいろお話したり質問に答えるという趣旨のものなんですけどね…。」

ドンキー「この企画長く続きそうにないな…。」

紀葉「そういうこと言うなよ…。」

ドンキー「で、今回は何するんだ？」

紀葉「ちょっと募集したいものを言うよ。」

・質問
作者についてでも、キャラについてでも構いません。

・意見
どんな意見でもおｋです。

・リクエスト
何か書いてほしいものがあれば。

紀葉「こんなもんか。」

ドンキー「需要あるのか？」

紀葉「言うな。とりあえず、何かあればこれの感想に送ってください。」

ドンキー「まぁ無くても何かしら書くから大丈夫だけどな。」

紀葉「では今回はこれで。さよーならー。」

## 初めに（後書き）

ご意見、待ってます！

## 第1回（前書き）

ドンキー「おーい紀葉、本番…あれ？どこ行った？」
紀葉「ばぁ！」
ドンキー「うわっ！ビビルワァ！」
紀葉「これがホントのびっくりドンキーｗｗｗ」

# 第1回

紀葉「どうも～。紀葉です～。」

ドンキー「ドンキーでーす。」

紀葉「さっそくだが質問に答えよう！」

ドンキー「来たのか！？」

紀葉「来たよ。」

ドンキー「マジで？」

紀葉「マジです。ではさっそく…カルピスフロートさんからドンキーに質問。」

ドンキー「俺？」

紀葉「作者とバナナならどっちが好き？とのことだ。」

ドンキー「バナナに決まってんだろＪＫ。」

紀葉「ですよねｗｗ」

作者涙目。

ドンキー「紀葉ならちょっと悩んだかも…。」

紀葉「へっ？」

ドンキー「でもバナナ。」

紀葉「やっぱりな…。まぁ次の質問行くぞ。」

ドンキー「まだあるのか…。」

紀葉「うん。阪神虎之介さんから作者に質問。」

ドンキー「作者にか。」

紀葉「なんで『普通で普通じゃない日常』を書こうと思った？とのことだ。」

ドンキー「なんか理由あるのか…？」

紀葉「作者のコメント。『実は中１の頃から普通（ｒｙみたいな話を脳内で繰り広げていて、小説家になろうを見つけていろんな人の小説を読んで、せっかくだからこの物語を小説にしちゃうか！というノリで書き始めました。ちなみに、最初は紀葉、千樹、杉助、桜太郎、百合の五人で行こうとしてました。』…とのこと。」

ドンキー「中１なのに中２病か。」

紀葉「誰うまｗｗｗよし、次ー！」

ドンキー「おーう。」

紀葉「竜斗さんから作者に質問。」

ドンキー「また作者か…。」

紀葉「リリカルなのはは知ってますか？知ってたらお気に入りのキャラは誰ですか？と…。」

ドンキー「あのアニメか…。」

紀葉「作者のコメント。『リリカルなのはは知ってますよ～。まぁニコニコから得た知識が六割ですけどねｗｗお気に入りのキャラはなのはです。ちなみに嫌いなのはもちろんクソ赤帽ですｗｗｗ』とのこと。」

ドンキー「クソ赤帽ってヴィータのことか。確かにあいつ逃走中とかで問題行動起こしまくりだもんな。」

紀葉「ホントだよね…。死ねばいいのに…。」

ドンキー「まだあるか？質問。」

紀葉「うん。しらさんから作者に質問。」

ドンキー「作者への質問多いな！」

紀葉「スマブラメンバーで一番好きなキャラ…はドンキーだと思うので、一番嫌いなキャラは？だって。」

ドンキー「俺のこと好きって言うわりには俺のことあんまり使ってないだろ作者。」

紀葉「作者曰わく、パワータイプや重量級のキャラは使いずらいんだって。」

ドンキー「練習しろよ！」

紀葉「まぁそれはおいといて。」

ドンキー「おいとくのかよ！？」

紀葉「作者のコメント。『ガノンドロフです。すんごい使いずらい。使いたくもない。見た目も好きになれない。リアルなおっさんは基本的に全員そうだけど。あと亜空のあれ見てもただの外道だし。悪いイメージばっかり。』…らしい。」

ドンキー「俺もガノンの野郎は嫌いだぜ。亜空の使者の件でロボットの仲間に亜空爆弾を無理やり起動させたり、ロボットを攻撃させたり、ロボットかわいそうってもんじゃなかったぜ…。」

紀葉「ドンキー…。」

ドンキー「事件の後ボコボコにしてやったけどな。」

紀葉「あ、やっぱり？」

ドンキー「そりゃそうだ。」

紀葉「ふーん…おっと、そろそろ時間だね。」

ドンキー「おぉ、今回はここまでか。」

紀葉「まだまだ質問受け付けてますよ！」

ドンキー「作者、俺、紀葉以外にでもおｋです。」

紀葉「それでは皆さん、ご機嫌よう！さよーならー！」

## 第1回（後書き）

予想以上にたくさん来て良かったです。

## 第2回（前書き）

紀葉「ちわーっ！三河屋でーす！」
ドンキー「あらサブちゃ～ん。」
紀葉「…普通逆だよなw」
ドンキー「てかなんだよこのコントw」

## 第2回

紀葉「えー、早くも二回目です！今回も三度の飯よりＮＬが好きな、私紀葉と！」

ドンキー「任天堂のゴリラ代表、ドンキーでお送りします。」

紀葉「ゴリラ代表ｗｗ確かにｗｗ」

ドンキー「任天堂のゴリラといえば俺だろ。」

紀葉「まぁそうだねｗｗではさっそく質問に移りたいと思います！」

ドンキー「ガンガンいくぜ！」

紀葉「阪神虎之介さんからドンキーに３つ質問。」

ドンキー「３つ！？」

紀葉「まず１つ目。バナナ以外で好きなものはある？」

ドンキー「バナナ以外か…。そうだな、みんなでレースしたり乱闘したりすることかな。」

紀葉「みんなと競い合うことが好きなんだね。」

ドンキー「おう。」

紀葉「じゃあ２つ目。今まで出たことがあるゲーム以外で出たいゲ

ームは？」

ドンキー「う～ん…。思いつかない…。」

紀葉「マリオの本編とかは？」

ドンキー「無理だしどっちかっていうと出たくない。自分の分だけでいっぱいいっぱいだからな…。」

紀葉「そうか…。ちなみに作者は今出てるゲームでも十分ドンキーを見れるからでてほしいゲームは特に無いらしいよ。」

ドンキー「まぁそうだろうな。」

紀葉「じゃあ３つ目。阪神と読売どっち好き？」

ドンキー「…阪神と読売ってなんだ？」

紀葉「…あぁ、そっちには阪神と読売無いんだね…。野球チームのことなんだけどさぁ…。」

ドンキー「野球チームか…。俺野球チームでキャプテンになったことあるぜ。」

紀葉「マリオ野球ですね、わかります。ちなみに作者はほとんど野球を見ないらしい。」

ドンキー「どうでもいいな。」

紀葉「そうだね。じゃあ次はＭＲ．ホースさんから作者に２つ質問。

」

ドンキー「やっぱり作者への質問多いな…。」

紀葉「1つ目。けいおん！のキャラで誰が好き？」

ドンキー「あー…あのほのぼのしてるやつか…。」

紀葉「作者は唯が好きらしい。表情が可愛いからって言ってた。」

ドンキー「表情か…。」

紀葉「表情です。じゃあ2つ目。魔法少女まどか☆マギカのキャラで誰が好き？」

ドンキー「もう何も怖くない！」

紀葉「おいやめろ。作者はなんとなくまどかが好きらしい。」

ドンキー「なんとなくかよ…。」

紀葉「そこまで詳しいわけじゃないらしいからな、作者も。はい次。」

ドンキー「ふい。」

紀葉「りゅーとさんから作者に2つ質問。」

ドンキー「俺らに質問しても全然いいのに…。」

紀葉「1つ目。スマブラで好きなトリオはありますか？」

ドンキー「トリオか…色々あるよな。」

紀葉「作者に聞いたら、マリオ、ドンキー、ヨッシーのトリオと、カービィ、メタナイト、デデデのトリオが好きらしい。」

ドンキー「なるほど。」

紀葉「あとトリオじゃないけど、ドンキー、ディディー、ファルコン、オリマーの4人が好きだとも言ってたな。」

ドンキー「やっぱ俺がらみ多いな…。」

紀葉「それからスマブラじゃないけど、ドンキー、ディディー、ランキーのトリオが超好きって…。」

ドンキー「なんで言うんだよ…。」

紀葉「言いたかったんだろうよ。よし2つ目。」

ドンキー「はぁ…。」

紀葉「トイレのドアを開けたら、作者が『和式トイレとドンキーは俺の嫁ー！』と言いながら襲いかかってきました。どうすればいいですか？」

ドンキー「なwんwじゃwそwりゃwww」

紀葉「作者のコメント。『殴ればいいと思うよ。あと言っときます

けどりゅーとさん、私洋式派です。それとドンキーは嫁じゃなくて嫁を超越した何かです。』…だって。」

ドンキー「まるで意味がわからんぞ！」

紀葉「そんなこんなでもう時間だ。」

ドンキー「最後意味不なまま終わった…。」

紀葉「ではまた次回。シーユーアゲイン！」

## 第2回（後書き）

やってやった…！俺はやってやったぞぉぉぉ！

## 第3回（前書き）

紀葉「質問見落とすとか作者最近だらしねぇな！」

ごめんなさい…。

## 第3回

紀葉「早くも三回目っす。」

ドンキー「感謝の極み。」

紀葉「今回もサクサク行きましょう！」

ドンキー「ほいさきた。」

紀葉「しらさんからドンキーに質問だ。」

ドンキー「ｋｔｋｒ！」

紀葉「ワリオが（しらさんの小説で）スマブラメンバーのことをしもべって言ってたけどそれでもガノンが一番嫌いなのは変わらない？」

ドンキー「ん～…そうだな、変わらない。」

紀葉「ほう、それは何故？」

ドンキー「だってしらさんのとこの話だろ？」

紀葉「あ、確かにwじゃあこっちで言ったとしたら？」

ドンキー「ワリオがそういうこと言うのは予想できるさ。だから別にそんな気にならねえよ。」

紀葉「え～…そうなの？」

ドンキー「てかワリオはさ、たまにニンニクを他の奴に分けようとするんだよ。多分厚意で。いらねえけど。ガノンは全くそういうこともしないからな…。」

紀葉「そうなんだ…。じゃあ次、しらさんから私とドンキーに質問。」

ドンキー「お、二人にか。」

紀葉「逃走中にでて逃走成功したら何に使う？ただし、ドンキーはバナナ以外で。」

ドンキー「バナナ以外！？」

紀葉「私は貯金かな。やっぱり少しでも生活を楽にしたいし…。」

ドンキー「うーん…あ、わかった！携帯買う！」

紀葉「…なんで？」

ドンキー「マリオ達と連絡とるのが楽になるから。」

紀葉「なるほど…でも携帯使いこなせるのか？」

ドンキー「大丈夫だ、問題ない。ディディーに手伝ってもらうから。」

紀葉「あぁ、そっすか…。じゃあ次いくよ。」

ドンキー「おう。」

紀葉「竜斗さんから作者に質問。」

ドンキー「やっぱりか。」

紀葉「ニコ厨になったきっかけは？」

ドンキー「…きっかけとかあるのかよ…。」

紀葉「作者のコメント。『ネサフしてたらニコ動見つけて、見始めて、そのうちニコ厨になりますたｗｗｗ』らしい。」

ドンキー「…ネサフ？」

紀葉「ネットサーフィンの略。ようするにインターネット上のサイトを見て回るんだよ。」

ドンキー「へ～…。」

紀葉「じゃあ次はｉｚｕｍｉさんから作者に質問。」

ドンキー「作者ってこう見ると謎だらけに見える。」

紀葉「ニコニコで一番好きなネタは？」

ドンキー「え、好きなネタ？」

紀葉「作者のコメント。『一番好きとか決められないですよｗｗｗ

でも最近よく使うのはシャダイネタかな。大丈夫だ、問題ない。』らしい。」

ドンキー「一番いい補足を頼む。」

紀葉「ようするに作者はニコニコ全体が好きなんだよ。」

ドンキー「そうかぁ…。ん？そろそろ時間じゃね？」

紀葉「おぉ、ホントだ。じゃあみなさん、また会いまっしょい。アディオス！」

## 第3回（後書き）

今後は見落とさないようにする！

## 第４回（前書き）

紀葉「パイの実超うめぇｗｗｗ」
ドンキー「バナナ超うめぇｗｗｗ」

## 第４回

紀葉「質問たくさん来るねー。」

ドンキー「そうだなー。」

紀葉「まぁ答えよう。」

ドンキー「おう。」

紀葉「竜斗さんから作者に質問。」

ドンキー「またかよちくしょう…。くやしいのうｗｗくやしいのうｗｗ」

紀葉「プリキュアで一番好きなキャラと一番嫌いなキャラは？」

ドンキー「両方聞くのか。」

紀葉「作者のコメント。『プリキュア知ってるんですけど、知識としてはまどマギより薄いです。なので特に好きなキャラはいないんですけど、竜斗さんの影響でくるみは嫌いです。』だとさ。」

ドンキー「あ～…プリキュアは俺もよくわからん。」

紀葉「私も…。じゃあ次行こうか。」

ドンキー「どんな質問くるんだ…。」

紀葉「りゅーとさんからドンキーに3つ質問。」

ドンキー「おぉ！」

紀葉「1つ目。スマブラに参戦になったとき思ったことは？」

※俺設定入ります。ご注意ください。

ドンキー「うーん…。最初は無理やり来させられたんだよな…。だからすぐに帰してほしかったんだよ。」

紀葉「そうなの！？…えと…それで…？」

ドンキー「でもDX以降はいろんな奴と戦えることにワクワクしたぜ。…あ～早くスマブラ新作出ないかな～？」

紀葉「そうなんだ…。じゃあ2つ目行くよ。」

ドンキー「ドンとこい！」

紀葉「学校の帰り道でネギを振り回すゴルゴに遭遇しました。助けてください。」

ドンキー「！？」

紀葉「どうした？早く答えろよ。」

ドンキー「えーと…じゃあ後でそいつしばいておくので…。」

紀葉「うむ。じゃあ3つ目な。」

ドンキー「嫌な予感しかしない…。」

紀葉「パピーコパピーコパピコパピコパピパピパピーコパピコパピコパピコー！パピコー！！」

ドンキー「もうどうにでもな～れ。」

紀葉「さぁ答えろ！」

ドンキー「えーと…パピコパピーコパピパピパピコパピーコパピコ！パピーコ！！」

紀葉「お前何言ってんの？」

ドンキー「…こんなの絶対おかしいよ…。」

紀葉「まぁ次行こう。次は普通だから。」

ドンキー「ホントか？」

紀葉「ｉｚｕｍｉさんから私とドンキーに２つ質問。」

ドンキー「はぁ。」

紀葉「一番会いたいアニメかゲーム（任天堂以外）のキャラはいますか？」

ドンキー「任天堂以外だったら、バンジョーに会ってみたいな。ディディーの友達らしいし。」

※ディディーコングレーシングの話です。

紀葉「うーん…遊戯王の王様（闇遊戯）かな？髪型どうなってんのか見たい。」

ドンキー「理由それかよｗｗ」

紀葉「いいじゃん、すごいじゃん、さかいじゃん～。」

ドンキー「古くね？」

紀葉「気にするな。２つ目。一番行きたいアニメの世界はある？」

ドンキー「えー…アニメってよくわかんねーよ…。」

紀葉「そっか。私は遊戯王の世界だな。髪型変な人がどんくらいいるのか見たい。」

ドンキー「だから理由ｗｗｗ」

紀葉「うぇｗｗあ、時間だ。」

ドンキー「あー終わった…疲れた…。」

紀葉「じゃあ今回はここまで。チャオチャオ！」

## 第４回（後書き）

そのあと。
ドンキー「なぁディディー…。」
ディディー「んあ？何？」
ドンキー「パピーコパピーコパピコパピコパピパピパピーコパピコパピコパピコー！パピコー！！」
ディディー「！？」
ドンキー「…これの意味わかるか？」
ディディー「…わけがわからないよ…。」

## 第5回（前書き）

紀葉「相手のゴールにシュウゥゥゥ！！」
ドンキー「超！エキサイティン！」

## 第5回

紀葉「ＷＲＹＹＹ！！最高にハイってやつだ！」

ドンキー「いきなりどうしたｗｗ」

紀葉「どうもしないよ。」

ドンキー「そーなのかー…。」

紀葉「じゃさっそく…阪神虎之介さんから作者に質問。」

ドンキー「うい。」

紀葉「『とある魔術の禁書目録』で好きなキャラは？」

ドンキー「（´・ω・）…？」

紀葉「ドンキーはわからないか…。作者は『とあるはよくわかんないです…。』って言ってたから特に好きなキャラはいないんじゃないかな。」

ドンキー「（・ω・）そうかそうか。」

紀葉「ショボーンが抜けきってないぞｗｗまぁ次。阪神虎之介さんからドンキーに４つ質問。」

ドンキー「多っ！！」

紀葉「1つ目。品種改良で赤くなったスイカ味のバナナと普通に怪しいバナナならどっち食べる？」

ドンキー「なんだよその質問…。」

紀葉「で、どっち？」

ドンキー「じゃあ赤いバナナ！」

紀葉「やっぱ怪しいバナナは食えないか。」

ドンキー「うん。てか赤いバナナは６４のときに見たことあるぜ。」

紀葉「ディディーのやつか…。」

ドンキー「そうそう。」

紀葉「じゃあ2つ目。ドラえもんの秘密道具で一番好きなものは？」

ドンキー「え？うーん…タイム風呂敷かな。」

紀葉「…なんで？タケコプターとかは？」

ドンキー「たるジェットで空は飛べるぜ。」

紀葉「うーん…まぁいいや。３つ目。アフガニスタンと北朝鮮ならどっち行く？」

ドンキー「（ °д°）」

紀葉「…まぁどっちも嫌だよね。」

ドンキー「（ー＿ー；）…おう。」

紀葉「じゃあ４つ目。ＥＮＥＯＳのエネゴリくんに会ったことある？」

ドンキー「ねーよｗｗｗ」

紀葉「ですよねーｗｗｗ次はちょっと時期が早い質問だな…。」

ドンキー「（´・ω・）？」

紀葉「ＭＲ．ホースさんから作者に２つ質問。」

ドンキー「（・ω・）ほう。」

紀葉「１つ目。バレンタインにはもちろんドンキーにチョコバナナをプレゼントしますか？」

ドンキー「ホントに早いな！」

紀葉「作者のコメント。『もちのろんじゃないですかｗｗｗ』…ドンキー、どう思う？」

ドンキー「もらえるもんはもらう主義だ。」

紀葉「え？あぁ、そう。」

ドンキー「曲のタイトルになってるぞｗｗ」

紀葉「気にするな！じゃあ２つ目。男性作者にチョコをあげるなら誰がいいですか？」

ドンキー「そんなこと聞くのかよ…。」

紀葉「作者のコメント。『誰か一人選ぶなら竜斗さんですかね。結構お世話になっているので。』…なるほどなぁ。」

ドンキー「竜斗さんって確かＤＫ６４の小説書いてるよな？」

紀葉「そうそう。それ見て一瞬で気に入ったらしい。それと逃走中に出させてもらったりもしたし…。」

ドンキー「竜斗さんの小説見て自分も書いていこうって思ったんだよな。」

紀葉「そうなんだよ。それじゃあ次、ＭＲ．ホースさんからドンキーに質問。」

ドンキー「なんだ？」

紀葉「作者からチョコバナナをもらったらホワイトデーのお返しは何贈る？」

ドンキー「あー…じゃあバナナ一房。」

紀葉「結構いいもん贈るんだなｗ」

ドンキー「だってよ…。」

紀葉「え？」

※俺設定入りまーす。

ドンキー「俺バレンタインなんて毎年義理チョコ一個しかもらえねぇんだよ！」

紀葉「え、ちょ、義理かどうかわかんないじゃん！あと誰から？」

ドンキー「キャンディーからだよ。全員に同じもの配ってんだ、義理じゃなかったらなんなんだ？」

紀葉「…ドンキーはどう思ってんの？」

ドンキー「キャンディーのことか？普通に仲間だけど。」

紀葉「ナエルーワ…。」

ドンキー「知らんがな。」

紀葉「えーと…ディクシーはやっぱディディーにあげてんだよね？」

ドンキー「そうだぜ。リア充爆発しろ畜生。」

紀葉「やっぱイチャイチャしてるのは良いよね…。相手のことだけを一心に…。」

ドンキー「お前何言ってんの？」

紀葉「あ、タイニーは誰にあげてんの？」

ドンキー「タイニーは…ランキーとチャンキーに。」

紀葉「本命は！？どっち！？」

ドンキー「なんでそんな興奮してるんだよ…ランキーのほうだ。」

紀葉「もしや２人はデキちゃってたり！？」

ドンキー「してない。」

紀葉「（，・ω・、）ショボーン…。」

ドンキー「両想いではあるんだけどｎ」

紀葉「うほぉぉぉ！？それはいわゆるすれ違いだな！王道中の王道！イイ！萌える！！」

ドンキー「聞け。タイニーはランキーが自分のこと好きなことに気づいてるよ。ランキーは気づいてない。」

紀葉「そうか…いつか告白してくるのを待ってるんだな…イイ！」

ドンキー「でもランキーへたれだからなぁ…。いつするかわかんねーよ。」

紀葉「今後の２人に期待だな…ンフフフｗｗｗ」

ドンキー「…猿でもいいのかよ…。」

紀葉「脳内で擬人化するから問題ない！」

ドンキー「…。」（気持ち悪い…。）

紀葉「おっと！話しすぎた！」

ドンキー「ホントだ。」

紀葉「じゃあ次回もお楽しみに。ドーンミスイットゥ！」

## 第5回（後書き）

完全に私の趣味です。
反省も後悔もしてません。

## 第6回（前書き）

紀葉「そんな装備で大丈夫か？」
ドンキー「大丈夫だ、問題ない。」

## 第6回

紀葉「ネタ系の質問最近多いな。」

ドンキー「正直疲れた…。」

紀葉「頑張れって！北京だって頑張ってるんだから！」

ドンキー「炎の妖精乙。」

紀葉「ともかく行くぞ。りゅーとさんから私とドンキーに3つ質問。」

ドンキー「あ、ちょっと楽だ…。」

紀葉「まず1つ目。ネタ系の質問ぶち込んでおk？」

ドンキー「俺はもうヤダよ！！」

紀葉「私もネタ系の質問答えたいけどなぁ…。あと作者が『ドンキーと紀葉と私以外に質問が来ない…。』って嘆いてたし。」

ドンキー「他のやつらにも質問してください。マジで。俺が疲れる。」

紀葉「まぁ次の質問…んん！？」

ドンキー「どした？」

紀葉「読めない…。」

ドンキー「どれどれ…なぁにこれぇ。何語だよ？」

紀葉「ヒンディー語だ。参ったな…ヒンディー語とかわかんないよ…。」

つ翻訳メモ

紀葉「あ、これ翻訳したやつか？」

ドンキー「早く渡せよ…。」

紀葉「じゃあ読むぞ。えーと…それはかなりシャツサイズ猿がないです。ブラ。」

ドンキー「なるほど、全くわからん。」

紀葉「直訳しやがったな…。わかんないからほっとこう。」

ドンキー「そうだな。」

紀葉「３つ目。前回のパピコ語の意味は分かりましたか？」

ドンキー「分かるわけねーだろ！」

紀葉「やっぱりな…。コングクルーの面々に聞いてただろ。」

ドンキー「なんで知ってんだよ！？」

紀葉「なんかさぁ、ディディーとかランキーとかからパピーコパピーコ（ｒｙって何？っていう内容の質問が…。」

ドンキー「そ、そうなのか…。」

紀葉「それで、訳は『お尻にロケット花火を刺すと飛べるって本当ですか？』らしい。」

ドンキー「…なんかいろいろおかしい…。」

紀葉「結論から言うと飛べません。マネしないでください。」

ドンキー「しねーよｗｗｗ」

紀葉「次行くよー。竜斗さんから作者に質問。」

ドンキー「結構たくさん答えたのにまだ作者に質問あるのか…。」

紀葉「ドンキーを好きになったきっかけはなんですか？」

ドンキー「そういや俺のことは最近好きになったとか言ってたな…。」

※活動報告参照。

紀葉「作者のコメント。『詳しいことは言えませんが、ネサフがきっかけです。』…あぁ～…。」

ドンキー「ネサフかよ。」

紀葉「ネサフだよ。」

ドンキー「ニコニコか？」

紀葉「どーも違うらしい。」

ドンキー「やっぱ作者って変人だな…。」

紀葉「何を分かりきったことを…あぁそうだ、ドンキーにメッセージきてるよ。」

ドンキー「メッセージ？誰から？」

紀葉「ランキーから。」

ドンキー「え？…内容は…。」

紀葉「えーっとね…『お前なんちゅうこと言ってんねん。シバくぞ。』って。」

ドンキー「（（（（（（。д。；）））））」

紀葉「…怖いのか？」

ドンキー「あいつ怒るとヤバいんだよ…俺死ぬかも…。」

紀葉「大丈夫だろ。小説だし。」

ドンキー「待ってくれ！ホントに…。」

紀葉「おっと時間だ。」

ドンキー「うえぇ！？」

紀葉「じゃあ次回も見てくださいね！じゃんけんぽん！（パー）うふふふふふ！」

## 第6回（後書き）

そのあと。
ランキー「覚悟できとるんやろうな…ドンキー…。」
ドンキー「ま、待て！話せｂ」
ランキー「問答無用やゴラァァァァ！！」
ドンキー「ギャァァァァ！！」

タイニー「…。」
チャンキー「タイニー、どうしたウッホ？」
タイニー「え？…あぁ、あのね…ランキー、ちゃんと話聞いてなかったのかなって…。」
チャンキー「（，・ω・）？」

## 第7回（前書き）

紀葉「ドンキーは犠牲になったのだ…。」

## 第7回

紀葉「えー、前回ドンキーがランキーにフルボッコにされたため、今回ドンキーはいません（自宅療養中）。というわけで、代わりの人を呼んでいます。どうぞ！」

カービィ「どーも、ピンクの悪魔ことカービィです。」

紀葉「自覚してるんだｗｗｗ」

カービィ「そうだよ。」

紀葉「どっちかっていうと化け物だと思うけど…。」

カービィ「化け物…？違う…。僕は悪魔だ…！」

紀葉「やっぱり言ったｗｗまぁ質問に答えていくよ。」

カービィ「おｋ、把握。」

紀葉「それじゃあ、しらさんから私とドンキーに２つ質問。」

カービィ「今回ドンキーいないから、僕が代わりに伝えるよ。」

紀葉「１つ目。マリオとルイージ、どっちが好き？」

カービィ「ドンキーは、『マリオだよ。マリオのほうが強いし、ルイージはビビりだし…マリオのほうが頼りになるからな。』って言ってたよ。僕もマリオのほうが好きだよ。強くてかっこいいから。」

紀葉「私もマリオだな。ルイージは臆病なイメージが…。」

カービィ「実際(こっちの)ルイージは臆病だよ。」

紀葉「やっぱり？じゃあ2つ目。マリオとワリオ、どっちが好き？」

カービィ「聞くまでもないでしょ…。ドンキーは『マリオに決まってるだろ！ルイージはまだしもなんでワリオと比べるんだよ！』って。当然僕もマリオのほうが好きだよ。」

紀葉「私も。ワリオはなんか好きになれない…。」

カービィ「激しく同意。」

紀葉「じゃあ次は、黄昏（TL）さんからドンキーに質問。」

カービィ「うん。」

紀葉「まだランキーの秘密知ってたりする？」

カービィ「ドンキーに聞いたら、『秘密っていうほどのもんじゃないと思うが、あいつ裁縫が得意なんだよ。尻のところにパッチワークあるだろ？あれ自分で縫ったらしいぜ。』って言ってた。」

紀葉「そうなの？意外だなぁ…。」

カービィ「あまりにもつまらないから、僕いろいろ調べてきたんだ。」

紀葉「！？」

カービィ「そしたらさ、ひょろいこと気にしてるとか、いつもディディーのイタズラの被害にあってるとか、でも素直にディクシーに愛情表現してるディディー見て自分もタイニーにあんなふうにできたらなぁ…って思ってるとか…。」

紀葉「それ以上は殺されるぞ！？」

カービィ「僕を誰だと思ってんの？」

紀葉「それ死亡フラグだから。ヤバいから。てか最後のほうはなんで分かるのさ。」

カービィ「ネスに協力してもらったんだよ。」

紀葉「なんて奴だぁ…！」

カービィ「まだ質問あるよね？」

紀葉「うん…りゅーとさんからディディーに４つ質問。初めて私とドンキーと作者以外にきたな！」

カービィ「ディディーにもちゃんと聞いてきたよ。」

紀葉「１つ目。スマブラに出ると聞いて思ったことは？」

※やっぱ俺設定。

カービィ「Ｘ組は亜空の使者のときに無理やり来させられたから、

最初はすぐ帰りたかったみたいだよ。ディディーも例外じゃないよ。」

紀葉「そうなんだ…今は？」

カービィ「今は乱闘が楽しいってさ。勝数少ないけど。」

紀葉「あんま勝ててないのかｗｗじゃー次。亜空の使者でフォックスとファルコと一緒に行動してたけど、２人とは仲良いの？」

カービィ「うーん…２人ともそれなりに仲良いけど、マリオファミリー以外だとファルコンとかオリマーとかのほうが仲良いみたいだよ。」

紀葉「ふーん…。巷じゃ桃太郎トリオとか言われてるよね？」

カービィ「まぁでもあんまり一緒にいるところは見ないけどね…。」

紀葉「そうかぁ…じゃあ次行くよ。」

カービィ「アイサー。」

紀葉「パピーコパピパピコパピパピコパピコー？」

カービィ「日本語でおｋ。」

紀葉「こういう質問なんだよ…ディディーに聞いてきた？」

カービィ「まぁ聞いてきたけどさ…。『日本語喋れ！』って怒鳴られた。」

紀葉「ドンキーに以前そういう質問きてディディーに意味聞いたみたいだからな…イライラしたのかな。カービィはどう思う？」

カービィ「パピパピパーピコパピコパピコー。ってところかな。」

紀葉「…もう次行くよ。次の質問は写真の感想を言うものです。まずはこれを…。」

犬のウンコを踏んでありえない表情をするタブーの写真。

カービィ「これはｗｗｗひどいｗｗｗ」

紀葉「ホントだねｗｗなんて言ってた？」

カービィ「『感想聞く相手オイラじゃなくてもいいだろこれ！！』って。写真についてはノーコメントだった。」

紀葉「まぁ何も言いたくないだろうねｗｗ」

カービィ「ちなみにドンキーに見せたら、『これ撮った奴ある意味天才じゃね？』って言ってた。」

紀葉「あ、確かにｗあぁそれと、前回のヒンディー語の訳が送られてきたよ。」

カービィ「それはシャツ（ｒｙって奴だよね？」

紀葉「そう。正しいのは、『このお猿さん、シャツのサイズがかなり違います。ブラジャーに着替えてください。』だそうだ。」

カービィ「ブラじゃないよー大胸筋サポーターだよー！」

紀葉「なんか懐かしいｗｗこのお猿さんってディディーかな？ドンキーはネクタイだけだし…。」

カービィ「そうだと思うよ。ディディーに言ったら、『なんでブラジャーなの？馬鹿なの？死ぬの？てかサイズ合ってるし。』というふうにマジレスしてきた。」

紀葉「うわー…もっと気のきいたコメントなかったのかな？」

カービィ「わかんない。てか時間だよ。」

紀葉「おぉホントだ。それじゃあこの次もサービスサービスぅ！」

## 第7回（後書き）

そのあと。
カービィ「結構面白かったな…。」
ポンポン
カービィ「ん？」クルッ
ランキー「（＃＾ω＾）」
カービィ「…！？な、なにをするきさまー！」
＼デデーン／

## 第8回（前書き）

紀葉「おーい、誰かカービィの居場所を知らんか？」

※自宅療養中です。

## 第8回

紀葉「あー…ドンキーがまだ復帰できず…カービィも諸事情で出られないということで…代わりの代わりを呼びました。ではどうぞ。」

マリオ「俺はマリオだ。よろしく！」

紀葉「うひょー！本物のマリオだ！あとでサインくれ！」

マリオ「ＯＫ、わかったよ。」

紀葉「それじゃあさっそく…ｉｚｕｍｉさんから私とドンキーに３つ質問。」

マリオ「ドンキーの分は俺が代わりに答えるからな。」

紀葉「１つ目。ストレス解消のためにすることは？」

マリオ「ドンキーの場合はもっぱら乱闘だな。スマブラ以外だとスポーツとかだ。」

紀葉「そーなのかー。私はやっぱゲームだな。」

マリオ「噂には聞いていたがここまでゲーム好きとは…。」

紀葉「サーセンｗｗじゃあ２つ目。オリキャラのことどう思う？」

マリオ「ドンキーに聞いてきたが、『紀葉はなんか変人だな。他の奴らは会ったことないから詳しいことはよくわからん。』だそうだ。

」

紀葉「変人って…まぁいいや。ちょっと私から見た普通（ｒｙメンバーをまとめてみたよ。」

千樹→ちょっと説教くさいお兄ちゃん

椛→美人な義姉

杉助→賑やかな奴

希華→仲の良い後輩

希菜→妹思いの良いお姉さん

希音→ヤンデレ怖い…

桜太郎→大親友

銀杏→兄弟仲良くね

百合→ぶっちゃけ苦手

木→かなり気が合う

マリオ「ふむふむ…なるほど。」

紀葉「よし、３つ目。Ｓな人とＭな人がやってきました。どうする？」

マリオ「（＾ω＾；）」

紀葉「変な質問だなぁって思ってる顔だね。私だったら2人ともハッ倒す。」

マリオ「えーと…ドンキーは『Sな奴が俺を殴ろうとしたら返り討ちにする。Mな奴は放置。』だそうだ。」

紀葉「ふーん…マリオだったら？」

マリオ「俺！？えー…2人とも放置で。」

紀葉「そっか。じゃあ次、ｉｚｕｍｉさんからドンキーに質問。」

マリオ「おう。」

紀葉「ぽぽぽぽーーーーーん！！！！！！」

マリオ「おぉふ…。」

紀葉「…どう思った？」

マリオ「あー…ドンキーは『そういや最近あいさつの魔法のＣＭ見ないなぁ…。』ってつぶやいてた。」

紀葉「あ、確かに…。じゃあ次、阪神虎之介さんからカービィに5つ質問。」

マリオ「カービィの分も聞いてきたぜ。」

紀葉「1つ目。カービィは何味ですか？」

マリオ「…カービィに聞いたら『塩味です。嘘です。自分じゃわかりません。』って言ってて…その後ヨッシーが来て、『良かったら調べましょうか？』って言ったからとりあえず表面だけ舐めてもらったらトマトっぽい味がしたらしい…。」

紀葉「マジか…桃味かと思ったんだけどな…。」

マリオ「食おうとするのはおすすめできないな。逆に食われる。」

紀葉「おぉ怖い怖いｗｗｗじゃあ2つ目。一番好きな食べ物は？」

マリオ「トマトらしい。カービィのところじゃマキシムトマトが全回復アイテムだからかな。」

紀葉「トマトばっかり食ってるからトマト味なの？」

マリオ「知らんがな。」

紀葉「…3つ目。カービィの血は何色ですか？」

マリオ「赤だ。さっきの味の話のとき、カービィが気持ち悪いって言ってヨッシーが怒ってカービィを殴ったんだ。そのときなんか赤い液体が出てて…。」

紀葉「普通に赤なんだ…。じゃあ4つ目。今まで出たことあるゲーム以外で出たいゲームは？」

マリオ「あぁ、なんか俺のゲームに出たいってかなり言ってたな。

ドラクエのキャラとかソニックが俺のゲームで共演できるのになんで自分はできないんだって…。」

紀葉「ぶっちゃけＦＦとかいいからさ、もっとマリオキャラ出してよ。」

マリオ「そう言われても…。」

紀葉「うーん…まぁ次。ドラえもんの秘密道具で好きなものは？」

マリオ「本人に聞いたらタイムマシンって言ってた。」

紀葉「そ…そっすか…。あ、時間。」

マリオ「おぉ、もう終わりか。」

紀葉「次回はどんな質問がくるのか…乞うご期待！」

## 第8回（後書き）

そのあと。
紀葉「念願のマリオのサインを手に入れたぞ！」
千樹「…。」
→そう、関係ないね
殺してでも奪いとる
譲ってくれ、頼む！
紀葉「…欲しくないの？」

## 第9回（前書き）

ドンキー「帰ってきたぞー！」

紀葉「遅いぞ！」

## 第9回

紀葉「今回やっとドンキー復帰です。」

ドンキー「やっと戻ってこれた…。」

紀葉「災難だったな、ドンキーｗｗ」

ドンキー「今思えばお前があんなこと聞かなければ…。」

紀葉「フヒヒｗｗサーセンｗｗｗ」

ドンキー「（´・ω・）反省しろよ…。」

紀葉「まぁまぁ、質問答えるぞ。まずはりゅーとさん…。」

ドンキー「！？」ゾワッ

紀葉「…のところのウルフから私とドンキーに質問。というよりはお願いかな？」

ドンキー「ビビルワァ！」

紀葉「お前失礼だぞｗｗえーとね…。『私はクリスマスでケーキを仲のいい子供に作ることになりました。私は料理は少ししますが、パーティーなどの本格的なのは難しいです。しかし、ケーキは種類が多く、どれを作ろうか迷ってしまいます。お願いがありますが、お二人からアドバイスをお願いいたします。』」

ドンキー「…は？それウルフからなのか？」

紀葉「あ、さっき読み忘れたけど文の途中にかっこ書きで『フォックスとリンクとピーチの奴め、俺様に押し付けやがって…！』って書いてたよ。」

ドンキー「ウルフだｗｗｗ礼儀良すぎクソワロタｗｗｗｗｗ」

紀葉「違和感ＭＡＸｗｗｗｗ誰てめｗｗｗｗｗ」

ドンキー「…ふぅ、それでケーキかぁ…。ならばバナナを入れるべきだ！」

紀葉「バカやろーう！！パイの実ケーキのほうがいいに決まってる！」

ドンキー「何を言うかお前は…バナナは譲れん！」

紀葉「あ、わかった！バナナとパイの実のケーキにすれば良いんだ！」

ドンキー「なん…だと…お前は天才か！？」

紀葉「これで大丈夫だな！」

ドンキー「解☆決！」

※作者が代わりに真面目に答えます。フルーツたっぷりのケーキとかは嫌いな人いないんじゃないですかね。個人的にクリームは普通の生クリームのほうがいいと思います。あとは気持ちです。愛情を

たっぷり注ぎましょう。

紀葉「それじゃあ次。りゅーとさんのところのトゥーンリンクから私とドンキーに…相談だな。これは。」

ドンキー「トゥーンから？」

紀葉「『僕からの相談があります！実は僕と僕の友達はクリスマスである人にあげるプレゼントを考えています！その人はいつも僕達と遊んでくれる優しい人です。感謝の気持ちを込めて渡したいんだ！ドンキー、紀葉さん、協力してください！にゃあー！』」

ドンキー「にゃあーってｗｗにゃあーってｗｗ」

紀葉「完全に猫じゃねーかｗｗｗ」

ドンキー「それでプレゼントか…じゃあバナナだな！」

紀葉「アホか！なんでクリスマスにバナナをもらわないといけないんだよ！」

ドンキー「なんだと…！？じゃあ他に何があるんだ！」

紀葉「ＮＬの同人誌のほうがいいだろ！」

ドンキー「それこそ誰も喜ばねーよ！」

紀葉「お前…馬鹿にしているのか？」

ドンキー「だってそうだろ…喜ぶのごく一部の人だけじゃねーか…。

」

紀葉「よろしい、ならば戦争だ。」

ドンキー「俺と戦おうというのか…。勝てると思っているのか？」

※作者が以下略。大事なものは気持ちです。手作りのものをあげれば良いと思います。

紀葉「…ってこんなことしてる場合じゃないな。」

ドンキー「あー…確かに。」

紀葉「次。りゅーとさんのところのマリオからドンキーにお願い。」

ドンキー「おっ、なんだろう。」

紀葉「『ドンキー、マリオだ！お願いがあるけど、俺の護衛をしてくれ！理由は？理由は俺がルイージのデイジーへのプレゼント代をキノコタウンのミニゲームに全部使っただけだ！（どや顔）え？ゲームの結果？全部負けましたｗｗｗてへぺろｗｗｗだからドンキー、バナナをあげるから護衛をお願い。ちなみにルイージはビームソード＋ハンマー＋ホームランバット装備＆止めようとした奴８人を返り討ちにしました。これさ、謝るべき？しらばっくれるべき？』」

ドンキー「…謝れよ…。」

紀葉「謝っても許してくれないと思うよ。助ける？」

ドンキー「やだ！」

紀葉「ちょｗｗおまｗｗ」

ドンキー「バナナのために命は懸けられねえよ…だから代わりに（こっちの）ゲムウォさんに喧嘩両成敗してもらう。」

紀葉「おいｗｗｗマリオ（りゅーとさんのところの）とルイージに死亡フラグがｗｗｗ」

ドンキー「ルイージ落ち着かせて、マリオにも反省させるにはうってつけだろ。」

紀葉「マリオとルイージ逃げて超逃げてｗｗｗじゃあ次。ｉｚｕｍｉさんからドンキーに２つ質問。」

ドンキー「へいへい。」

紀葉「今まで色々冒険したり乱闘したりしてるけど、今までで一番驚いたことは？」

ドンキー「うーん…スマブラに来てからさ、カービィのコピー能力とかソニックのありえない足の速さとか驚くことはたくさんあったけど、やっぱり一番は…。」

紀葉「一番は？」

ドンキー「ラーマの唾でマグマが一瞬にして水に変わったことだな。」

紀葉「…は？どういう意味？わけがわからないよ。」

ドンキー「そのままの意味だ。俺だってわかんねえよ…。」

紀葉「謎すぎる…。わかんないから次。スマブラに出てないキャラで一緒に乱闘したいのは？」

ドンキー「そうだな…バンジョーとカズーイかな。」

紀葉「レア社のあれか？他社枠としてだったら出れそうだな。」

ドンキー「出てほしいな…っと時間。」

紀葉「ありゃ、ホントだ。じゃあ今回はこれで。バイバーイ！」

## 第９回（後書き）

ラーマの唾がどうのこうのってのはＤＫ６４ネタです。

## 番外編　ヨッシーさん（前書き）

書きたかったのでなんとなく書いた。

## 番外編　ヨッシーさん

ヨッシーは人に対する態度が人によってかなり違います。
例えば、ヨッシーが楽しみに取っておいたプリン（ポケモンじゃないよ）を誰かが食べてしまったとします。
そのときの対応がかなり違いますよ。
マリオファミリーを例に取って見てみましょう。

ヨッシー「あれ？僕のプリンがない…。いったい誰が…あ。」

マリオの場合。

マリオ「おぉ、ヨッシー。どうした？」

ヨッシー「マリオさん…えーと…。」

マリオ「あ、もしかしてこれお前のだったのか！？すまん！食べてしまった…。」

ヨッシー「いや、大丈夫ですよ！プリンもマリオさんに食べられたら本望だと思うので！」

マリオ「え、いや、おま、本望って…。」

ピーチの場合。

ピーチ「あら、ヨッシー。どうしたの？」

ヨッシー「あのー…ピーチ姫…。」

ピーチ「…もしかしてこれあなたのだったかしら？ごめんなさい、食べちゃったわ…。」

ヨッシー「いや、大丈夫ですよ。コンビニで買えるものなんで。」

ピーチ「でも…。」

ヨッシー「大丈夫です。気にしないでください。」

ピーチ「そう…ていうかこれコンビニで買える割にはおいしいのね。」

ヨッシー「そうなんですよ。」

ドンキーの場合。

ドンキー「お、ヨッシーじゃん。どした？」

ヨッシー「ドンキーさん…それ僕のなんですけど。」

ドンキー「え、そうだったのか！？すまん！」

ヨッシー「別にいいですよ。コンビニで買えるんで。」

ドンキー「いやしかしだな…。」

ヨッシー「反省してるんだったらいいですよ。」

ドンキー「そ、そうか…。」

ルイージの場合。

ルイージ「あれ？どうしたのヨッシー？」

ヨッシー「ルイージさん、それ僕のです。」

ルイージ「あ、そうだったの…？ごめん、気づかなかった…。」

ヨッシー「ルイージさんに気づかなかったって言われると嫌な気分になるんですけど。」

ルイージ「え、酷くない？」

ヨッシー「まぁ、プリンの件は別にいいですよ。安物なので。お似合いです。」

ルイージ「酷いや酷いや…。（´；ω；｀）」

ディディーの場合。

ディディー「ヨッシーだ。なんか用？」

ヨッシー「ディディーさん、それ僕のプリンです。」

ディディー「え！？嘘！？マジで！？」

ヨッシー「驚く前に謝罪してください。」

ディディー「サーセンｗｗｗ」

ヨッシー「ちゃんと謝ってください。」（黒いオーラが出てる）

ディディー「…ごめんなさい…。」

ヨッシー「よろしい。」

クッパの場合。

クッパ「おぉ、ヨッシーではないか。どうしたのだ？」

ヨッシー「クッパさん、それ僕のなんですけど。」

クッパ「何！？そうなのか！？すまないのだ！」

ヨッシー「この亀…。」

クッパ「ＭＡ☆ＴＴＥ！あとで１０個ぐらいプリンを買ってくる！それでいいだろう！？」

ヨッシー「…わかりましたよ…全く…。」

ワリオの場合。

ワリオ「あ？なんか用かヨッシー！」

ヨッシー「おい、それ僕のプリンだぞ…。」

ワリオ「知らねーよ、冷蔵庫に入ってたんだから誰が食べてもいいだろうが。つーか買ってくれｂ」

ヨッシー「コロスコロスコロスコロスコロスコロス…。」

ワリオ「！？」

そのころ、庭。

オリマー「いやぁ、立派な花が咲いたなぁ。なぁピクミン？」

ピクミン達「ピクミーン。」

ドガシャァァァン！！

オリマー「！？」

ピクミン達「！？」

建物のほうからボロボロのワリオが飛び出てきた！
そしてオリマー達のいるところの（オリマーから見て）左斜め後ろに転がった。

ワリオ「あ…が…。」

オリマー「ワリオさん！？」

ズダンッ！

オリマー「！？」

ピクミン達「！？」

ヨッシーが近くに降りてきた。

ヨッシー「チェストォォォォ！！」

ドゴォォォッ！！

ワリオ「ムワァァァァ！！」

ヨッシーはワリオをおもいっきり蹴り飛ばした！

ヨッシー「ふんんん！！」

そしてワリオに向かってボム兵を投げた！

／デデーン＼

オリマー「…エグい…。」

ピクミン達「…。」ガクブルガクブル

## 番外編　ヨッシーさん（後書き）

思いついた小ネタはこれに書くことにしました。

## 第１０回（前書き）

紀葉「世間はさぁ…冷てぇよなぁ…。」
ドンキー「俺についてこい！」

## 第１０回

紀葉「記念すべき（？）第１０回だ！」

ドンキー「もう１０回か…早いもんだな…。」

紀葉「特に特別なことやるわけじゃないですけどね。まぁサクサク行こう。」

ドンキー「そうだな。」

紀葉「まずは阪神虎之介さんから私とドンキーと作者に質問。」

ドンキー「ほう。」

紀葉「男子校と女子校で同日に文化祭が行われることになりました。好きなほうに行けるとしたらどっちに行く？」

ドンキー「俺は男子校だな。男子校のほうが気楽だし。」

紀葉「私も男子校。男子校のほうが面白そうだから。作者も男子校らしい。男子のほうがノリがいいからだって。」

ドンキー「ノリってｗｗ」

紀葉「ノリだよ。じゃあ次。しらさんからルイージに質問。」

ドンキー「ルイージにか。」

紀葉「逃走中で逃走成功したら何に使う？ただし、貯金以外で。」

ドンキー「ルイージに聞いてきたら『貯金以外か…だったら何か高級なものでも食べようかな。』らしいぞ。」

紀葉「実につまらない…。」

ドンキー「全くだ。」

紀葉「次。ｉｚｕｍｉさんから私とドンキーに３つ質問。」

ドンキー「うい。」

紀葉「１つ目。他の作者さんのオリキャラで一番会いたい人は？」

ドンキー「えー…わからん。というか他の作者さんのところでそこのオリキャラ見たことないよな。」

紀葉「そうなんだよね…てか気にしたことないし…。」

ドンキー「まぁしいて言うなら俺も紀葉も作者さんに会いたいよな。」

紀葉「そうだね。じゃあ２つ目。銀髪の人と言われて誰を思い出す？」

ドンキー「銀髪？うーん…爺ちゃん…は白髪か…じゃあいない。」

紀葉「爺ちゃんてｗｗｗ私だったらＢＬＥＡＣＨの日番谷かな。日番谷といえば、日雛最高。」

ドンキー「話がずれるからやめてくれ…。」

紀葉「しょうがねーなぁ…。じゃあ3つ目。太鼓の達人をやってる人が『一緒に鬼やろう』と言ってきました。どうする？」

ドンキー「あー…俺だったら断る。」

紀葉「なんだよ…自信ないのか？」

ドンキー「いや、壊しそうだから。」

紀葉「たwしwかwにw…まぁ私ならもちろん引き受けるよ。太鼓の達人は得意だから。」

ドンキー「どのくらい？」

紀葉「きたさいたま２０００フルコン余裕ですが何か？」

ドンキー「廃人ｗｗｗ」

紀葉「うるせーよｗｗｗ」

バリーン！！

２人「！？」

ゴロゴロ

紀葉「お…お前は…。」

ドンキー「馬鹿な…何故お前が…。」

ディディー「そういう中2的なノリは要らないよ！」

紀葉「いやｗｗｗだってｗｗｗ」

ドンキー「なんでお前なのｗｗｗ普通ここはｗｗｗ作者だろｗｗｗ」

ディディー「実は2人に言いたいことが…。」

紀葉「え？」

ディディー「もうあれはビックリしたよｗ」

ドンキー「なんだよ？早く話せよ。」

ディディー「聞いて驚かないでよ…。」

2人「うん。」

ディディー「ランキーが人形相手にタイニーに告る練習してたｗｗｗ」

ドンキー「（ °д °）」

紀葉「ディディー、その話ｋｗｓｋ」

ディディー「カワサキ？」

紀葉「詳しく！今すぐ！」

ディディー「あぁハイハイ、えーt」

ランキー「おいディディー、お前何やってんねん。」

ディディー「！！！！」

紀葉「あ、ランキーだ。」

ドンキー「なんというタイミング…。」

ランキー「収録中に入ったらダメやろ。」

ドンキー「いや、お前もだぞ？」

ランキー「おぉすまんなドンキー。ほな帰るで、ディディー。」

紀葉「あーランキー、ちょっといい？」

ランキー「ん？なんや？」

紀葉「人形相手にタイニーに告る練習してたってホント？」

ドンキー「（ °д° ）」

ディディー「（ °д° ）」

ランキー「…それ誰から聞いたんや、おい。」

紀葉「ディディーから。」

ディディー「（　＾ω＾）」

ランキー「（＾ω＾　）」

ディディー「（（（（（；＾ω＾））））」

ランキー「（＾ω＾＃）」

ディディー「いや…あの…これｈ」

ランキー「お　も　て　で　ろ」

ディディー「あーーー……。」ズルズル

ドンキー「ご愁傷様…てか紀葉ｗｗおいｗｗｗ」

紀葉「てへぺろｗｗｗ」

＜ゴッドハンドクラッシャー！

＜ウボァー！

ドンキー「…。」

紀葉「（＾ω＾）時間だお。」

ドンキー「…そうか。」

紀葉「こんなカオスですが、これからもよろしくお願いします！」

## 第１０回（後書き）

タイニー「あの～…。」
チャンキー「どうもウッホ～。」
紀葉「あ、タイニーとチャンキー。」
ドンキー「お前らも来てたのかよ…。」
タイニー「入るタイミング逃しちゃって…。」
チャンキー「（，・ω・）ウッホ…。」

## ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8862y/

色々雑談部屋

2011年12月5日00時51分発行